型式比較による南島爪形文土器の位置付けについて

Typological Comparison of Southern-island Nail-marked Pottery

伊藤　圭
Ito Kei

ABSTRACT: The origin of 'Yabuchi', the earliest pottery type in Southern Islands, has not yet been clarified. It has been said that this type of pottery was developed under a major influence from Kyushu, however, one of the closest types found in the Monden site bears different features from Yabuchi type. It also shows some Kyushu-nail-mark elements so that it cannot be regarded as the same category as Yabuchi type. It seems impossible to trace back the genealogy of Yabuchi type Pottery in Japan. The study of Yabuchi type pottery should be carried out in wider scope, including the adjacent Asian districts.

はじめに

南島爪形文土器※i は、現在に至ってもその出自だけでなく、年代的な位置付けも不安定なままである。これは、南島爪形文土器を本土の爪形文土器と同じ範疇で考える一方で、実年代に大きな誤差が生じているためである。その上、本土の爪形文土器の編年的位置付けや、系統問題において研究者によって意見が分かれることも大きな要因となっている。そのため、本土の爪形文土器との比較を先学に基づいて再検討する必要があると思われる。現在では、爪形文土器は北海道から沖縄まで列島各地で出土しているが、南島爪形文土器を本土の爪形文土器と具体的に比較・検討を行っている論考は、管見の限り「南島の土器起源をめぐって」（岸本 1991）のみである。そこで本稿は、岸本義彦氏の行った研究を踏襲し、南島爪形文土器と本土の爪形文土器との関係を探ることを目的とする。

1．研究略史

1960年、沖縄本島の藪地洞穴遺跡において南島爪形文土器が初めて検出された（国分、三島 1965）。その後、奄美大島の土浜イヤンヤ洞穴遺跡でも同様の土器片が発見されたため（永井、三島 1964）、先史時代における両島の交流を考える上で重要な資料と位置付けられ、「ヤブチ式」と型式設定された（国分、三島 1965）。しかし、年代については明確ではなく、縄文時代後期相当と推定された。ところが、1975年の渡具知東原遺跡の調査において、ヤブチ式土器が曽畑式土器出土以下の層準から出土したため、少なくとも縄文時代前期相当まで遡ることが判明した。加えて、新種の爪形文土器も検出され、「東原式」と型式設定された（知念 1977）。

1981年から行われた野国貝塚群B地点における調査により、多量の爪形文土器片が検出された（島袋 1984）。大型の破片も得られたため、器形の推定が試みられた。また、これまで出土したものと異なる型式（野国Ⅳ類）も新たに検出され、「野国タイプ」と呼称された（岸本 1984）。そして野国タイプは、出土層位などから南島爪形文土器の古式に位置付けられた（岸本 1984）。

一方、南島爪形文土器の出自に関しては、発掘資料が増加している現在においても不明瞭のままである。土肥孝氏は、門田遺跡出土の爪形文土器を東北地方で得られている爪形文土器と比較して、施文手法上、同系統とし、南島爪形文土器が縄文時代草創期に相当する可能性を指摘している（土肥

1982）。ところが、1987年、喜子川遺跡において、爪形文土器出土層より下位からアカホヤ火山灰層（6500～6300yBP）が検出された（田村 1989）。そのため、渡具知東原遺跡などで得られている炭素14測定年代の結果と併せて、南島爪形文土器は縄文時代早期相当までは遡らないとする考えが主流となっている。しかし、岸本氏は、この喜子川遺跡における爪形文土器を含む包含層が二次堆積によるものである点、アカホヤ火山灰層自体一枚の層を形成しているわけではなく、ブロック状に点在している点を指摘し、型式学的検討を行わずに南島爪形文土器の位置付けを行うことに警鐘を鳴らしている（岸本 1991）。

2．爪形文土器の整理と分類

現在、爪形文土器が検出されている遺跡は、報告されているものだけでも90ヶ所を超える。そして、多くの研究者による分類が試みられているが、南島爪形文土器と本土の爪形文土器を同列に比較し得るものは、河口貞徳氏の分類のみである（河口 1983）。そこで、本稿では河口氏の分類を基にして分類基準を再構築し、これを記号化して比較・検討を行う。

爪形文土器は、南島のみならず本土における出土資料も小片が多く、全体の器形を推定できる資料はごく一部である。そのため、本稿では爪形文および指頭痕の形状や施文方法による比較のみに留めざるを得ない。しかし、指頭痕の形状や施文方法の違いは、成形方法の違いに結び付く重要な手掛かりになると考えられる。そのため、これを着眼点として分類する。

いわゆる「爪形文」は、調整痕と文様に分けることができるため（河口 1983）、これをそれぞれⅠ類・Ⅱ類とした。そして、指頭痕を「F」、爪形文（刺突文）を施文方法から「a」～「d」の記号で表した。それぞれの細分は表1の通りである。また、爪形文の傾きは、わかるもののみを細分した。なお、本稿の分類と河口氏の分類との対応は、表3に示した。

対象とした資料は報告されているものとし、主に縄文時代草創期の資料を扱い※ii、報告書の記述や図面から機械的に分類した。なお、本稿は南島爪形文土器と本土の爪形文土器との比較を行うことを目的とするため、沖縄で出土していない隆起線文系や、押圧縄文系土器群と併施される爪形文は対象から除外した。また、隆起線文系土器群に併施される爪形文との認識が強いと思われる"ハ"の字状爪形文に関しては、神奈川県花見山遺跡に単独で施文されている例（図1－3・4）もあるため、比較対象に含めた。

表1　爪形文土器の本稿分類

爪形文の分類

Ⅰ（調整）	F_1	縦長の指頭痕が残るもの。
Ⅱ（文様）	F_2	指頭痕のみ、または指頭痕に一次的に爪痕が残されたもの。
	a	横方向へ連続施文されたもの。
	b	縦方向へ連続施文されたもの。
	c	斜方向へ連続施文されたもの。
	d	不規則に施文されたもの。

Ⅱ類土器における細分記号

$○_l$	爪形文が左傾に施されるもの。
$○_r$	爪形文が右傾に施されるもの。
$○_s$	爪形文が縦位に施されるもの。
$○_h$	爪形文が横位に施されるもの。
○'	爪形文の傾きが列単位で変わるもの。Ex)羽状など
○"	爪形文の傾きが1点単位で変わるもの。Ex)“ハ”の字状※iiiなど
$○^+$	沈線が併施されるもの。
$○^-$	押引き施文されるもの※iv。

補足記号

A・B	AとBの複合施文。
A／B	AまたはBの施文。

表２　各地の爪形文土器

地域	遺跡		爪形文土器				参考文献
	名称	所在地	図面※1	分類	原体	備考	
東北	鴨平(2)遺跡	青森県 八戸市	○	Ⅱ a 1/2a類、Ⅱ a'類	工具	爪形文はＤ字状。構成は羽状あり。口縁軽く外反、または胴上部で外反か。	1
	鳥居平遺跡	秋田県 鹿角市	○	Ⅱ a 1"類、Ⅱ a''類	?	構成は羽状あり。	2
	岩瀬遺跡	秋田県 横手市	○	Ⅱ a"類、Ⅱ b 3類？	爪？	構成はハの字状あり。内面指頭痕。口縁外反。口唇平坦。	3
	大新町遺跡	岩手県 盛岡市	◎	Ⅱ a 2類、Ⅱ a 4類、Ⅱ a 1-4類、Ⅱ a 3類、Ⅱ a'類、Ⅱ a 1・a"類	爪・工具	爪形文は米粒状・Ｄ字状・切先状あり。構成はハの字状・羽状・無文帯あり。口縁やや外反。口唇舌状・平坦。丸底・丸底的尖底。器形ボール状。	4,5
	大館遺跡	岩手県 盛岡市	○	Ⅱ a 4類	?	爪形文は米粒状。	6
	前九年遺跡	岩手県 盛岡市	○	?	?	口縁外傾／直状。	7
	館坂遺跡	岩手県 盛岡市	○	Ⅱ a 4類？	?	口縁外傾／直状。口唇平坦。	7
	耳取遺跡	岩手県 岩手郡滝沢村	○	Ⅱ a 1/2b類	?		8
	室小路15遺跡	岩手県 岩手郡滝沢村	○	Ⅱ a 2類、Ⅱ a 4類、Ⅱ a 3類、Ⅱ a 5類	?	爪形文は米粒状・切先状・三日月Ｄ字状。口縁外傾・内傾・直状。口唇平坦・舌状	9
	一ノ沢岩陰遺跡	山形県 東置賜郡高畠町	○	Ⅱ a 7／a"類	爪・工具	構成はい（ハ？）の字状あり。真正爪と工具を交互に施文するものあり。	10,11,12
	日向洞窟遺跡	山形県 東置賜郡高畠町	○	Ⅱ a 3類、Ⅱ a'類	爪・工具	構成は羽状・ハの字状・ソの字状あり。口唇施文あり。口縁直状・外傾。口唇平坦・丸味。	12,13,14,15
	火箱岩洞窟遺跡	山形県 東置賜郡高畠町	×	Ⅱ a 類？	工具	口縁外反。	11
	大立洞穴遺跡	山形県 東置賜郡高畠町	×	?	?	爪形文は出土しているものの詳細不明。	16
	志引遺跡	宮城県 多賀城市	○	Ⅱ a 5/7類	?	風化が著しい。	17
北陸	布目遺跡	新潟県 新潟市	○	Ⅱ a'類、Ⅱ a"類、Ⅱ d類	爪・工具	構成はＶ字状（ハの字状）・くの字状（羽状）。口縁直状・外傾。口唇平坦・丸味。	18
	小瀬ヶ沢洞穴遺跡	新潟県 東蒲原郡阿賀町	○	Ⅱ a 3類、Ⅱ a 7類、Ⅱ a 1・5類、Ⅱ a'類、Ⅱ a"類、Ⅱ b'類	工具	口縁やや外反・ほぼ直口。平口縁・小波状口縁。口唇概ね平坦。構成はハの字状・羽状あり。爪形は細密・粗大あり。	19,20
	壬遺跡	新潟県 十日町市	○	Ⅱ a 3類	爪・工具	口縁やや外傾。小波状口縁。構成は無文帯あり。	21,22
	卯の木遺跡	新潟県 中魚沼郡津南町	○	Ⅱ a 5"類	?	口縁舌状、外反。	23
	白岩尾掛遺跡	富山県 中新川郡立山町	○	Ⅱ b"類	工具	構成はハの字状。	24
	北堀貝塚	福井県 福井市	○	Ⅱ a 5類、Ⅱ a 5"類、Ⅱ b"／a"類	?	羽島下層Ⅱ式（Ｄ字状）、構成はハの字状あり。草創期土器とは区別。	25
	鳥浜貝塚	福井県 三方上中郡若狭町	○	Ⅱ a 5類、Ⅱ a 5 類	工具		26
関東	大谷寺洞穴遺跡	栃木県 宇都宮市	○	Ⅱ a類、Ⅱ a"類	工具	爪形の傾き不明。構成はハの字状・無文帯あり。口縁外反。口唇舌状あり。	27
	大町遺跡	栃木県 河内郡上三川町	○	Ⅱ a 3類、Ⅱ a 5類、Ⅱ b'類	爪・工具	構成は縦位綾杉状（ハの字状）あり。	28
	西鹿田中島遺跡	群馬県 みどり市	○	Ⅱ a 3類、Ⅱ a 7類、Ⅱ a 5類、Ⅱ a 6類、Ⅱ d類、Ⅱ a'類、Ⅱ a"類、Ⅱ a"・a 1類、Ⅱ b"類、Ⅱ d"類？	爪・工具	構成は羽状・ハの字状あり。口縁外傾・外反。口唇平坦・舌状・丸味。乳房状尖底・平底。	29,30,31
	神谷遺跡	群馬県 伊勢崎市	○	Ⅱ a'類、Ⅱ b'／a"／b"類	爪・工具	構成は鋸歯（綾杉？）状・ハの字状・羽状あり。口唇平坦・舌状？	32
	三ツ木遺跡	群馬県 伊勢崎市	×	Ⅱ a 1類	?	爪形は半月状（Ｄ字状？）。	32,33
	下宿遺跡Ｅ地点	群馬県 太田市	◎	Ⅱ a類、Ⅱ a'類？、Ⅱ a"類？	工具	乳房状尖底。	34
	豊喰遺跡	茨城県 那珂市	○	Ⅱ a 3類、Ⅱ a 6類、Ⅱ a 1類	?		35,36
	原の寺遺跡	茨城県 ひたちなか市	○	Ⅱ a 3類	工具	口縁外傾。口唇平坦。	35
	貝柄山遺跡	茨城県 常総市	×	Ⅱ a 3類	?	爪形文は出土しているものの詳細不明。	37
	地国穴台遺跡	千葉県 印西市	○	Ⅱ a"／b"類	工具	構成はハの字状。隆起線文と併施された可能性高い。	38
	林跡遺跡	千葉県 鎌ヶ谷市	○	?	爪	構成はハの字状の可能性あり。隆起線文と併施された可能性高い。	39
	前三舟台遺跡	千葉県 富津市	○	Ⅱ a 3類、Ⅱ a"／b"類	爪・工具	構成はハの字状・無文帯あり。	40
	えんぎ山遺跡	埼玉県 さいたま市	○	Ⅱ a 3類、Ⅱ a 5類	?	口縁外反。口唇舌状？	41
	大丸山遺跡	埼玉県 さいたま市	○	Ⅰ b類、Ⅱ a 5類	爪・工具?		42
	大和田遺跡	埼玉県 さいたま市	○	Ⅱ a 3類	工具	やや外反。口唇丸味。	43
	十二番耕地遺跡	埼玉県 上尾市	○	Ⅱ a 3類？	?	くの字状に屈曲。	44
	八ヶ上遺跡	埼玉県 富士見市	○	Ⅱ a 3類	工具	爪形文は口唇に施文。口唇直状・外傾。口唇平坦。	45
	小岩井渡場遺跡	埼玉県 飯能市	○	Ⅱ a 3類	工具	口縁肥厚。口唇平坦。	46
	加能里遺跡	埼玉県 飯能市	○	Ⅱ b 5類	?	爪形文は弧状。口縁外傾。口唇舌状。	47
	橋立岩陰遺跡	埼玉県 秩父市	○	Ⅱ a 3類、Ⅱ a 5類	爪・工具?	口縁外傾。口唇舌状・丸味。	48
	水久保遺跡	埼玉県 深谷市	×	Ⅱ a 5類、Ⅱ a'類	?	構成は鋸歯状（綾杉状？）あり。	49
	西谷遺跡	埼玉県 深谷市	○	Ⅱ a'類？、Ⅱ a"類？、Ⅱ c'類？	工具	構成はハの字状あり。口縁外傾。口唇舌状・丸味。	50,51
	宮林遺跡	埼玉県 深谷市	○	Ⅱ a 1類、Ⅱ a 1類、Ⅱ a類、Ⅱ a 1類、Ⅱ a 1-a'類、Ⅱ a'類、Ⅱ a'・Ⅱ a"類、Ⅱ a"類、Ⅱ b"類、Ⅱ a 2"類？、Ⅱ a''類	爪または工具	構成はハの字状・羽状・ハの字と羽状が複合するもの・無文帯あり。口唇施文あり。口縁直状・やや外傾・やや外反。口唇舌状・平坦・丸味。平底。	52
	東光寺裏遺跡	埼玉県 深谷市	○	Ⅱ a 1類？	工具？	口縁直状。口唇舌状。諸磯式とも草創期爪形文とも異なる。	53
	大久保山Ａ遺跡	埼玉県 本庄市	×	?	?	爪形文は出土しているものの詳細不明。	54,55
	宥勝寺北裏遺跡	埼玉県 本庄市	○	Ⅱ a 3類？、Ⅱ a"類	?		54,56
	如来堂Ｂ遺跡	埼玉県 児玉郡美里町	○	Ⅱ a 3類	?		57
	如来堂Ｃ遺跡	埼玉県 児玉郡美里町	○	Ⅱ a 3類、Ⅱ a 5/6類？	爪？・工具	口縁外傾。口唇平坦。	58
	皀樹原遺跡	埼玉県 児玉郡神川町	×	Ⅱ a 5類	?		59
	向ノ原遺跡Ｂ地点	東京都 杉並区	○	Ⅱ a 1・b'類、Ⅱ a 5・b 5類、Ⅱ a 5-b・b"類、Ⅱ a 5・a b・b 5類	爪？・工具	口唇施文あり（工具か指）。構成はハの字状あり。口縁ややや外傾・やや外反。口唇舌状・平坦・丸味。	60
	川島谷遺跡群第10地点	東京都 町田市	◎	Ⅱ a 3類	爪？	口縁外傾。口唇舌状。乳房状尖底。器形砲弾形。	61
	花見山遺跡	神奈川県 横浜市	◎	Ⅱ a"類、Ⅱ b"類	?	爪形は三日月状・米粒状。構成はハの字状。口唇施文あり。口縁外反・直状。口唇舌状丸味。丸底。	62

地域	遺跡		爪形文土器				参考文献
	名称	所在地	図面※v	分類	原体	備考	
関東	三ノ宮・宮ノ前遺跡	神奈川県 伊勢原市	○	Ⅱa$_1$類	工具	尖底あるいは乳房状を呈する底部が供伴。	63
	柏ケ谷長ヲサ遺跡	神奈川県 海老名市	○	Ⅱb'類？	工具	構成はハの字状。口縁直状。口唇平坦。	64
	深見諏訪山遺跡	神奈川県 大和市	○	Ⅱb$_b$類	爪	無文帯あり。口縁外傾。口唇舌状。平底に近い丸底。	65
	今田遺跡	神奈川県 藤沢市	○	Ⅱb"／c類、Ⅱb$_b$類、Ⅱb$_b$・d類	工具	構成はハの字状？あり。地文に条痕が施されるものあり。丸底か。	66
	南葛野遺跡	神奈川県 藤沢市	○	Ⅱa$_1$類、Ⅱa$_2$類、Ⅱd類	爪？	口縁外傾。口唇舌状。沈線と併施された可能性あり。	67
東海	酒呑ジュリンナ遺跡	愛知県 豊田市	○	Ⅱb$_1$類？	？	丸底か。	68
	桃ノ湖遺跡	岐阜県 中津川市	○	Ⅱa$_1$類、Ⅱa$_b$／b$_b$類、Ⅱa'類	？	構成は羽状あり。突帯文との併施あり。粕畑式？あり。	69,70
	九合洞穴遺跡	岐阜県 山県市	○	Ⅱa'類、Ⅱa"類	爪・工具	構成はハの字状・羽状文。指頭痕を残す資料（河口 1983）は、報告書からは確認できなかった。	71
甲信・東海	曽根遺跡	長野県 諏訪市	○	Ⅱa$_1$類、Ⅱa$_b$類、Ⅱa'・c類	爪・工具	性質の異なる爪形が向きを変えて施文されるものあり。口唇施文あり。口縁外反・外傾。	72
	片羽町遺跡	長野県 諏訪市	○	Ⅱa$_a$類、Ⅱa$_b$⁻類、Ⅱc$_a$類、Ⅱc$_b$類、Ⅱc'類、Ⅱd$_a$類	爪・工具	爪形文列が斜行するもの多数あり。口縁外反・外傾。口唇舌状。	73
	仲町遺跡	長野県 上水内郡信濃町	○	Ⅱa$_1$類、Ⅱa$_2$類、Ⅱa$_a$類、Ⅱa'類	？		74,75,76,77
	石小屋洞窟遺跡	長野県 須坂市	×	？	？	爪形文は出土しているものの詳細不明。	78,79
	クマンバ遺跡第Ⅱ地点	長野県 大町市	○	Ⅱa$_1$類、Ⅱa類	？	口唇施文あり。	80
	柳又遺跡	長野県 木曽郡木曽町	×	？	？	爪形文は出土しているものの詳細不明。	81
	増野川子石遺跡	長野県 伊那郡高森町	○	Ⅱa類	？	爪形の傾き不明。報告では草創期ではないとされているが、表裏縄文・斜縄文と供伴。ローリングも受けていない。	82
近畿	志高遺跡	京都府 舞鶴市	◎	Ⅱa$_1$類、Ⅱa"類	爪	口唇施文あり（工具）。構成はハの字状・無文帯あり。口縁僅かに外反。	83
	浦入遺跡群	京都府 舞鶴市	○	Ⅱa$_1$類、Ⅱa$_2$類、Ⅱd$_{2/a}$類	爪・工具？	爪形は逆D字状。	84
	上津大片刈遺跡	奈良県 山辺郡山添村	○	Ⅱa$_2$類、Ⅱb$_1$類、Ⅱb$_2$類、Ⅱb$_a$類	？	口唇にのみ爪形が確認できる資料あり。構成は無文帯あり。口縁やや外反・外傾。口唇舌状・丸味。爪形は三日月状。	85
九州	門田遺跡	福岡県 春日市	◎	ⅠF$_2$類、ⅠF$_2$・Ⅱd類	指頭・爪	逆D字状指頭痕。口唇施文あり。口縁外反。胴部張り微弱。丸底。器形サラダボウル状？	86
	福井洞穴遺跡	長崎県 佐世保市	×	ⅠF$_2$類、Ⅱa$_2$類、Ⅱa$_a$類、Ⅱa'類	指頭・爪	指頭痕に爪痕が一次的に付されるものの他、指頭痕のみが残る資料あり。	79,87,88,89,90
	泉福寺遺跡	長崎県 佐世保市	○	Ⅱa$_1$類、Ⅱa$_2$類、Ⅱa$_a$類、Ⅱb$_2$類、Ⅱa"類、Ⅱb'類、Ⅱd類	爪・工具？	構成はハの字状・綾杉状・無文帯あり。口唇施文、指頭痕を残すものあり。口縁直状・外反。口唇平坦・先鋭。	91,92
	無田原遺跡	熊本県 菊池市	○	？	指頭・爪	小片１点のみのため詳細不明。北部九州系爪形文に類似。	93
	河陽Ｆ遺跡	熊本県 阿蘇郡南阿蘇村	◎	ⅠF$_2$類	指頭・爪	口唇施文（工具）。底部付近は無文か。口縁外反。胴部の張り微弱。	94
	白鳥平Ｂ遺跡	熊本県 人吉市	○	Ⅱa$_2$類、Ⅱa$_{2-b}$類、Ⅱa$_{a-b}$類Ⅱd類	爪または工具	横位爪形に指頭痕が伴うものあり。爪形はC字状（三日月状？）・D字状。左→右、上段→下段へ施文。構成は無文帯あり。口縁外傾。口唇平坦・丸味。	95
	堂地西遺跡	宮崎県 宮崎市	○	Ⅱa$_2$類、Ⅱa$_b$類？、Ⅱd類	爪・工具	口唇施文あり（工具）。口縁やや外傾・外反・直状。口唇舌状・丸味・やや肥厚。	96
	椎屋形第１遺跡	宮崎県 宮崎市	○	ⅡF$_2$類、Ⅱa$_b$類、Ⅱa$_2$類、Ⅱa$_2$・a'類	指頭・爪	薄く貼付した粘土帯上に爪形を施文するものあり。口唇施文あり。口縁外傾・内傾。口唇舌状・平坦。	97
	上の原遺跡	宮崎県 宮崎市	○	Ⅱa$_1$類、Ⅱa$_a$類	？	口縁直状・外傾。口唇舌状・平坦・丸味。	98
	霧島遺跡	宮崎県 児湯郡川南町	○	Ⅱa$_{2/a}$類？	爪？	口縁外傾。口唇舌状。	99
	岩土原遺跡	宮崎県 延岡市	○	Ⅱa$_{2/a}$類	爪	爪形文は突帯状に施文。口縁外傾。	100
	上場遺跡	鹿児島県 出水市	○	Ⅱa$_a$類	？		101
奄美地方	喜子川遺跡	鹿児島県 大島郡笠利町	○	ⅡF'類、Ⅱa⁻類	指頭・爪・工具	左→右、下段→上段へ施文。口縁やや外反・直状。頭部ほぼ直状。胴部張る。丸底か。	102,103
	宇宿高又遺跡	鹿児島県 大島郡笠利町	○	ⅡF⁻類	指頭・爪	指頭による押引き施文。	104
	土浜イヤンヤ洞穴遺跡	鹿児島県 大島郡笠利町	○	ⅠF$_2$類、ⅡF$_2$'類、ⅡF⁻類、ⅡF⁻'類？、Ⅱa⁻類	指頭・爪・工具		105,106,107
	面縄第１貝塚	鹿児島県 大島郡伊仙町	○	ⅠF$_2$類	指頭	口唇舌状。	108
	中甫洞穴遺跡	鹿児島県 大島郡知名町	○	ⅠF$_2$類、Ⅱa$_a$類、Ⅱa$_b$類	指頭・工具	表裏指頭痕あり。	109,110
沖縄	仲泊貝塚付近	沖縄県 国頭郡恩納村	○	ⅠF$_2$／ⅡF⁻類	指頭	指頭による押引き施文。表裏指頭痕。	111
	渡具知東原遺跡	沖縄県 中頭郡読谷村	○	ⅠF$_2$類、ⅠF$_2$・Ⅱa$_a$類、ⅡF⁻・a$_{1/a}$類、Ⅱa$_a$類、Ⅱa$_{1/a}$'類	指頭・爪・工具	爪形は逆D字状。	112
	野国貝塚群Ｂ地点	沖縄県 中頭郡嘉手納町	◎	ⅠF$_1$類、ⅠF$_2$類、ⅠF$_2$・Ⅱa$_1$類、ⅠF$_2$・Ⅱa$_a$類、ⅠF$_2$・Ⅱ⁻類、Ⅱa$_1$類、Ⅱa$_a$類、ⅡF⁻類、Ⅱa$_a$⁻類、Ⅱa$_1$・a$_a$類	指頭・爪・工具	表裏指頭痕あり。	113
	ヤブチ洞穴遺跡	沖縄県 うるま市	○	ⅠF$_1$類、ⅠF$_2$類	指頭	表裏指頭痕あり。口縁やや外反・やや外傾。口唇舌状。	114
	城間古墓群第９号墓	沖縄県 浦添市	○	ⅠF$_2$類	指頭	表裏指頭痕あり。	115
	チヂフチャー洞穴遺跡	沖縄県 浦添市	○	ⅠF$_2$類	指頭		116
	船越原遺跡	沖縄県 島尻郡渡嘉敷村	○	ⅠF$_2$類	指頭	口縁やや外反。口唇平坦。	117

３．各地の爪形文土器との比較

表２を概観すると、Ⅰ類、Ⅱ類が九州を境に分かれる。本州ではⅠ類が少なく、明らかな施文を行うⅡ類が大半を占めている。一方、九州ではいわゆる南部九州的な明らかな施文を行うものと、北部九州的な指頭痕を残すものとに大きく分かれる。そして、沖縄では、野国タイプとヤブチ式、東原式とでそれぞれⅠ類、Ⅱ類に分かれるが、これが年代差と認識される点が九州の様相と異なる※vi。

また、Ⅱ類土器について、九州以北にはｂ～ｄ類が散見できるのに対し、奄美諸島以南ではａ類の

表３　河口氏の分類との対応表

河口氏の分類			本稿の分類	
指頭押圧痕	1	指頭押圧痕	ＩＦ類およびⅡＦ類	爪痕の有無を考えず、調整痕は全てＩ類に含めた。 指頭痕のみであっても、列ごとに傾きを変えるものや、指頭を押し引くとされるものは文様の要素が強いと思われるため、Ⅱ類に含めた。
	2	指頭押圧痕と爪形痕とが一次的に印されたもの		
	3	指頭押圧痕に二次的に爪形文が付加されたもの	ＩＦ・Ⅱａ類および ＩＦ・Ⅱｄ類	調整による指頭痕に文様が加わるもの。
爪形文	4	爪形文が一方向に横位帯状に施されたもの	Ⅱａ類	爪形文を横方向に施すもの。一方向に限らず、横位帯状に施されるものを全て含めた。
	5	爪形文が斜行帯状または縦列帯状に施されたもの	Ⅱｂ類、Ⅱｃ類	爪形文を縦方向に施すもの（ｂ類）と、斜め方向に施すもの（ｃ類）。
	6	爪形文の向きに変化のあるもの	Ⅱ○'類および Ⅱ○"類	爪形文および指頭痕の傾きが変わる単位を、１点ごと・列ごとで細分した。 河口分類の「向き」とは、施文方向の可能性もあるが、本稿では羽状と“ハ”の字状を区別し、それぞれの性格の違いを表すために「傾き」の変化で分類した。
	7	爪形文が不規則に施されたもの	Ⅱｄ類	ランダムに爪形文を施すもの。

みしか認められない。奄美諸島以南でａ類の要素を持つものは東原式である。東原式は、渡具知東原遺跡の層序からヤブチ式に後続することがわかっている。また、東原式の中にはヤブチ式的な指頭痕[※vii]が残るものもあり、型式学的にもヤブチ式からスムーズに移行していると言える。東原式にｂ類～ｄ類が存在しないのは、東原式が土器成形時の調整痕を特徴とするヤブチ式を祖形とするためと思われる。これは、奄美諸島以南に、個々の爪形文の傾きが変わるもの（"ハ"の字状爪形文など）がなく、その傾きが変わる場合、必ず列ごとに変わる点もこのことを間接的に示す特徴と思われる。

本土のⅡ類土器には東原式と類似するものが多いが、Ⅰ・Ⅱ類の分布状況からヤブチ式が本州の土器の影響を受けているとは思えないため、東原式が本州Ⅱ類土器の影響を受けているとは言い難い。よって、南島爪形文土器は、本州の爪形文土器と比較して、型式学的に異なる系譜にあると言える。

いわゆる北部九州的な爪形文土器は、指頭痕を残す点でヤブチ式と近似する。中でも、福岡県門田遺跡や熊本県河陽Ｆ遺跡出土の爪形文土器は、Ⅰ類に属する資料の中でも破片が大きく、器面全体の特徴を捉え易いため、良好な比較資料となる。門田遺跡の資料は、ヤブチ式的な指頭痕が器面全体に残るため、南島爪形文土器との関係が取り沙汰されている。一方、河陽Ｆ遺跡の資料は指頭痕が必ずしも器面全体に残るわけではなく、底部に近づくにつれて無文部が多くなる傾向にある（岡本 2003）。また、指頭痕の形状は、門田遺跡の資料やヤブチ式のそれと異なる。この指頭痕の形状の違いは、成形方法が異なることを意味するものと考えられる（伊藤 2004）。指頭痕が器面全体に配されないこともこのことに起因するのではないだろうか。長崎県福井洞穴遺跡の資料にも、指頭痕の形状が河陽Ｆ遺跡と近似しているものがあり、同型式の土器と思われる。

４．南島爪形文土器の出自について

九州では文様として指頭痕を残すものも多いが、ヤブチ式的な指頭痕を持つものは、門田遺跡の資料のみである。門田遺跡の資料は、共伴遺物が確認されていないため、年代を特定できないが、九州出土の他の爪形文土器は、縄文時代草創期に比定されている。そのため、前述した型式の違いを考慮すれば、南島爪形文土器は九州以北の草創期爪形文土器群とは切り離して考えた方が妥当であろう。

ところで、門田遺跡の爪形文土器と近似する土器は、朝鮮半島南部の東三洞貝塚でも出土している（岡本 1982）。東三洞貝塚は早くから調査・研究が行われた著名な遺跡で、５つの層位に分けられている[※viii]（坂田 1978）。この最下層からは、坂田邦洋氏がＧ型・Ｈ型と設定した土器が、塞ノ神式や轟式の土器片などと共に出土しており（坂田 1978）、写真を見る限りヤブチ式と酷似しているように思える。年代は、ＢＣ5000年代末～4000年頃とされており、その上層から曽畑式が出土している（坂田 1978）。これは、南島爪形文土器の出土状況に近似しており、年代的な位置付けを考える上

で興味深い。

しかしながら、朝鮮半島でG型・H型土器のような資料を出土している遺跡は、数遺跡で報告されているに過ぎず※ix、出土量が南島に比べても少ないため、現時点では、ヤブチ式土器の出自を朝鮮半島に直接求めることは危険である。また、仮に南島爪形文土器の出自を朝鮮半島に求めた場合には、朝鮮半島により近接する奄美諸島の爪形文土器が、沖縄諸島のそれよりも古式になることが期待されるが、そのような様相を明確に感じることはできない。

おわりに

各地の爪形文土器を整理・分類した結果、南島爪形文土器は、型式学的に本土の爪形文土器と別系統であることを示した。一方、門田遺跡や朝鮮半島の爪形文土器については、型式学的な特徴から、南島爪形文土器と同一系統と推測される。しかし、このようなヤブチ式土器と類似する資料の出土例は少ないため、南島爪形文土器の出自を特定するには至らなかった。しかし、中国や東南アジアにおいても南島爪形文土器と時期を等しくして爪形文土器が出土しているという。本稿から、日本本土にその出自を求めることは難しいため、今後は隣接するアジアの発掘調査の進展に期待したい。

【追記】

本稿の執筆には多くの方からの御教示・御助成がありました。末尾になりますが、記して感謝致します。

岸本義彦・伊集ゆきの（沖縄県立埋蔵文化財センター）、仲宗根求（沖縄県読谷村立歴史民俗資料館）、泉拓良（京都大学）、豆谷和之（奈良県田原本町教育委員会）、岡田憲一（奈良県立橿原考古学研究所）、馬田弘稔・小田和利・加藤和歳（九州歴史資料館）、神原雄一郎（岩手県盛岡市教育委員会）、溝田直己（奈良大学大学院生）　順不同、敬称略

【注釈】

※i　南島の爪形文土器は、南島独自の様相を呈しているため、「南島爪形文土器」と呼称し（新東 1997、下地 2000）、九州以北の爪形文土器と区別した。

※ii　本土の爪形文土器は、縄文時代前期にも認められる（表2 福井県北堀貝塚、京都府志高遺跡・浦入遺跡）。

※iii　整然と並ぶ"ハ"の字状爪形文に関しては、報告書に「意図的にハの字を作出している」旨の記載があるもの以外は縦位綾杉状爪形文と理解し、「b'」で表した。

※iv　指頭を押引きするとされているヤブチ式は、Ⅱ類土器に含めた。

※v　「図面」の「○」「×」は実測図の有無を、「◎」は図上復元されているものを表す。

※vi　九州において、「南部九州的な爪形文」と「北部九州的な爪形文」は必ずしも地域差と言うことはできないが、両者が層位的に出土する遺跡は確認されていない。

※vii　ヤブチ式土器における指頭痕の多くは、指頭を押圧しただけでは施すことができないD字状を呈している。これを「ヤブチ式的な指頭痕」と記述した（伊藤 2004）。

※viii　東三洞貝塚発掘調査に携わった韓炳三氏によると、大きく3つの層位に分けることができる（韓 1979）。

※ix　新東晃一氏は、新岩里遺跡の指頭文土器との類似性を指摘している（新東 1997、下地 2000）。また、岡田憲一氏のご教示によると、凡方貝塚でも縄文時代早・前期併行の爪形文土器が出土している。

（いとう　けい：臨時的任用専門員）

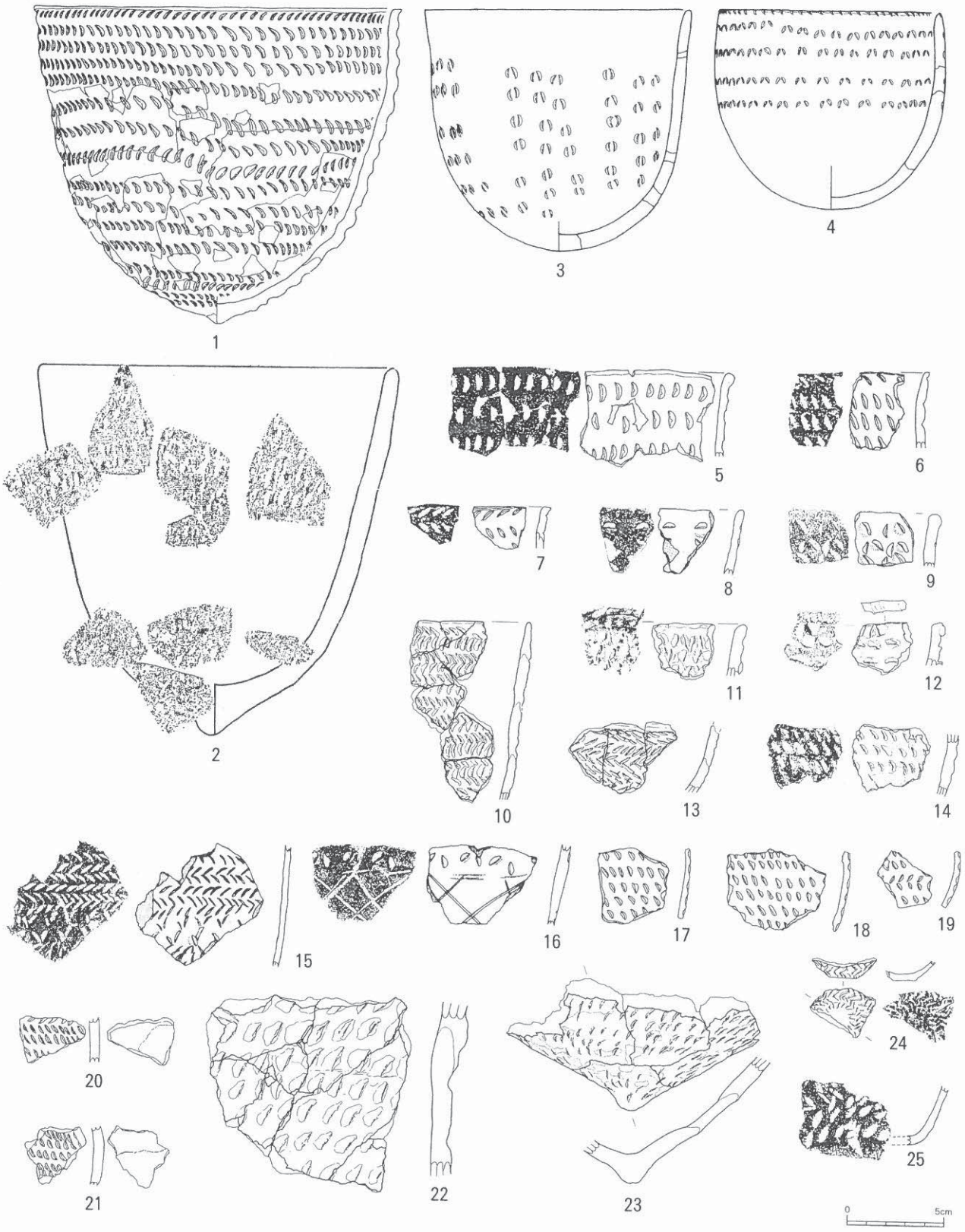

図１　本州の爪形文土器（Ｓ=1／3）

1:大新町遺跡（文献５より転載）、2:川島谷遺跡群（文献61より転載）、3・4 花見山遺跡（文献62より転載）、5 ～ 7:大新町遺跡（文献４より転載）、8・9・15・16・25:宮林遺跡（文献52より転載）、10～14・22～24:西鹿田中島遺跡（文献31より転載）、17～19:鴨平（２）遺跡（文献１より転載）、20・21:仲町遺跡（文献75より転載）

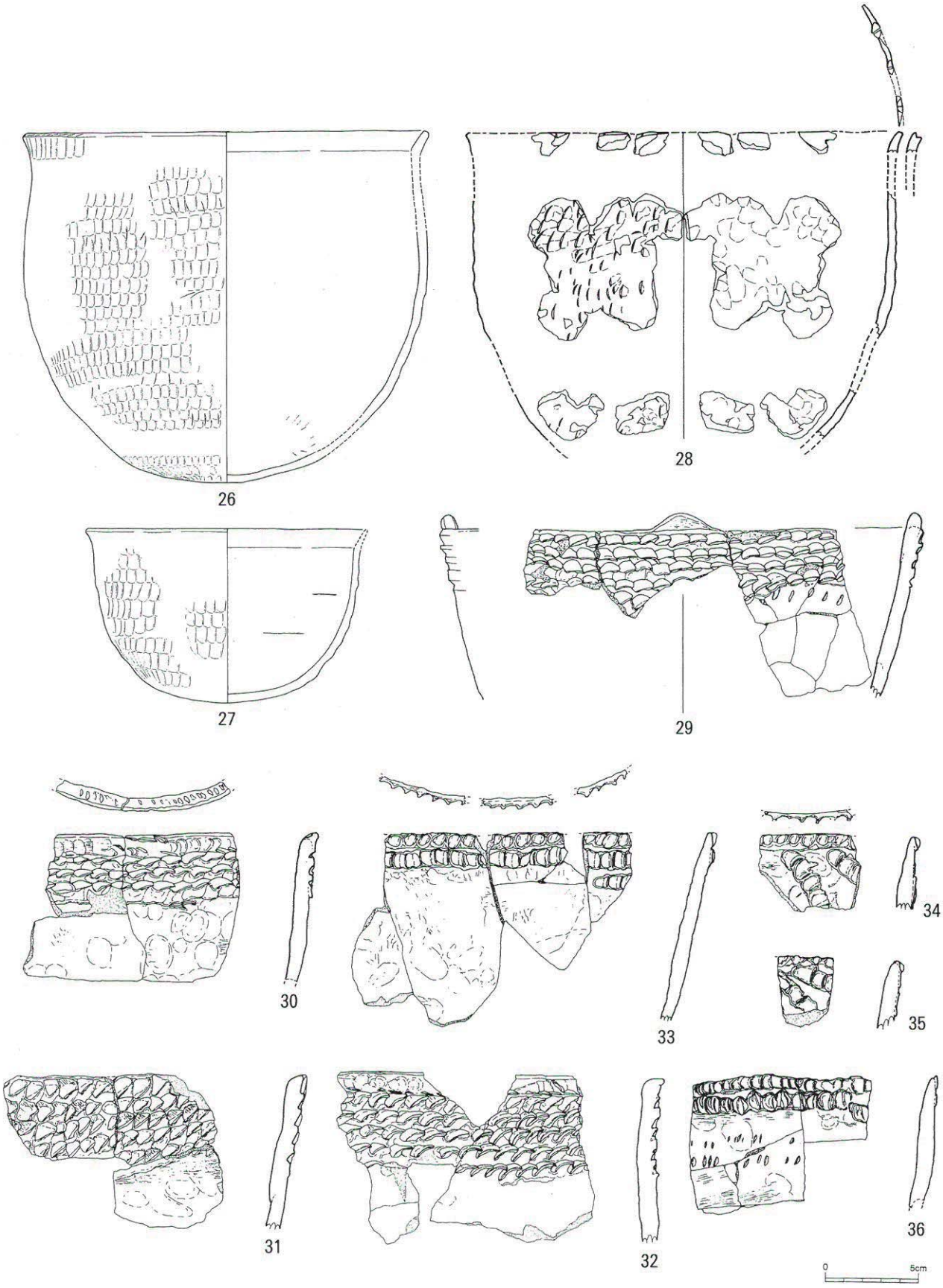

図２　九州の爪形文土器－１（Ｓ=1／３）

26･27:門田遺跡（九州歴史資料館蔵）、28:河陽F遺跡群（文献94より転載）、29～36椎屋形第１遺跡（文献97より転載）

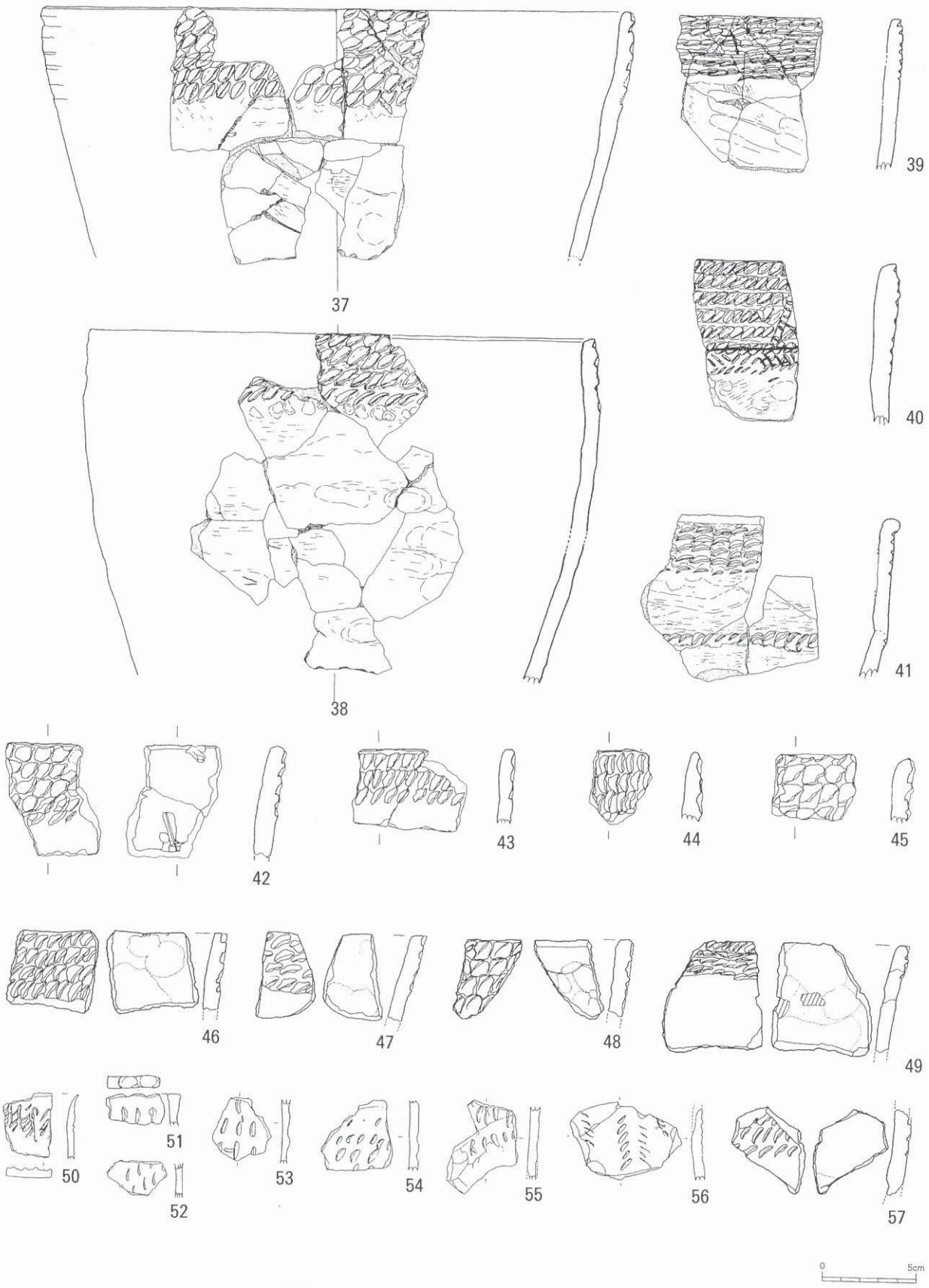

図３　九州の爪形文土器－２（Ｓ=1／3）

37～41:椎屋形第１遺跡（文献97より転載）、42～45:上の原遺跡（文献98より転載）、46～49・57:白鳥平Ｂ遺跡（文献95より転載）、50～56:泉福寺洞穴遺跡（文献92より転載）

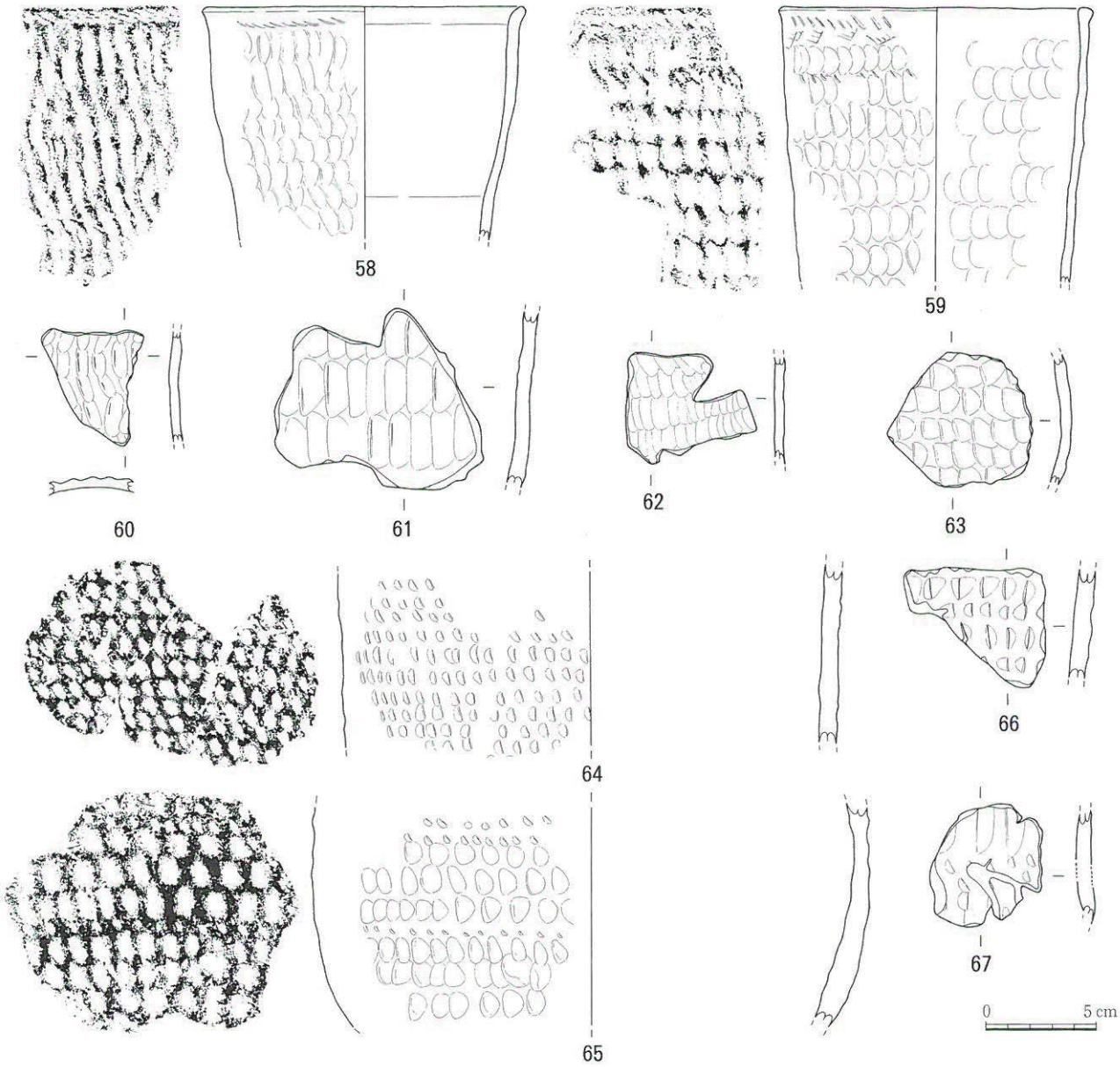

図４　沖縄の爪形文土器（Ｓ＝１／３）

58～61・63～65：野国貝塚群Ｂ地点（沖縄県立埋蔵文化財センター蔵、拓本は文献113より転載）、62・66・67：渡具知東原遺跡（読谷村立歴史民俗資料館蔵）

【引用・参考文献】

1　春日信興 1982『鴨平(2)遺跡発掘調査報告書』（青森県埋蔵文化財調査報告書第73集）青森県教育委員会

2　橋本高史ほか 1982「飛鳥平遺跡」『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅲ - 鳥居平遺跡・飛鳥平遺跡・北の林Ⅰ遺跡 - 』（秋田県文化財調査報告書第89集）秋田県教育委員会

3　利部修 1996『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ＸＸⅡ - 岩瀬遺跡 - 』秋田県教育委員会

4　千田和文、八木光則ほか 1986「大新町遺跡第17・19次調査」『大館遺跡群　大新町遺跡 大館町遺跡 - 昭和60年度発掘調査概報 - 』盛岡市教育委員会

5　千田和文、八木光則ほか 1987『大館遺跡群　大新町遺跡 - 昭和61年度発掘調査概報 - 』盛岡市教育委員会

6　千田和文、八木光則ほか 1989「大館町遺跡」『大館遺跡群　大新町遺跡 大館町遺跡 - 昭和62年度発掘調査概報 - 』盛岡市教育委員会

7　神原雄一郎 1998「大新町遺跡をめぐる早期前葉土器群の様相 - 予察 - 」『大館遺跡群　大館町遺跡 大新町遺跡

- 平成８年度・９年度発掘調査概報 - 』盛岡市教育委員会
8　桐生正一、桜井芳彦 1986『耳取遺跡』滝沢村教育委員会・東北電力株式会社岩手支店
9　桐生正一 1999「室小路15遺跡」『室小路土地区画整理事業発掘調査報告書』滝沢村教育委員会
10　加藤稔、佐々木洋治 1962「山形県一ノ沢岩陰遺跡」『上代文化』第31・32輯 国学院大学考古学会
11　佐々木洋治 1971『高畠町史』別巻・考古資料編 高畠町
12　佐々木洋治 1975「山形県における縄文草創期文化の研究Ⅱ」『山形県立博物館研究報告』第３号 山形県立博物館
13　加藤稔 1958「日向の尖頭器と早期縄文土器」『山形考古』第５号 山形考古友の会
14　加藤稔ほか 1969『山形県史』資料11篇 考古資料 山形県
15　佐々木洋治 1985「山形県日向洞窟」『探訪縄文の遺跡 - 東日本編 - 』有斐閣
16　佐々木洋治、佐藤義信 1978「遺物」『大立洞穴第三次調査概報』山形県立博物館・山形県教育委員会
17　鎌田俊明 1984「旧石器時代の遺物」『志引遺跡』多賀城市教育委員会
18　小野昭、小熊博史 1982「巻町布目遺跡の調査」『巻町史研究』Ⅲ 巻町
19　中村孝三郎 1960「縄文早期 小瀬が沢洞窟」『長岡市立科学博物館考古研究室調査報告』第三冊 長岡市立科学博物館考古研究室
20　小熊博史、前山精明 1994「新潟県小瀬が沢洞窟遺跡出土遺物の再検討」『環日本海における土器出現期の様相』雄山閣
21　水野祐之、黒坂禎二 1981『壬遺跡1981』（國學院大學文学部考古学実習報告）國學院大學文学部考古学研究室
22　國學院大學文学部考古学研究室 1982「土器」『壬遺跡1982 新潟県中魚沼郡中里村』（國學院大學文学部考古学実習報告第3集）國學院大學文学部考古学研究室
23　中村孝三郎 1963「卯の木押型文遺跡」『長岡市立科学博物館考古研究室調査報告』第五冊 長岡市立科学博物館考古研究室
24　林寺厳州、古川知明 1984「立山町白岩尾掛遺跡 縄文草創期遺物の新知見」『富山市考古資料館報』第34号 富山市考古資料館
25　木下哲夫1991「北堀貝塚採集の縄文土器について」『北堀貝塚 - 重要遺跡範囲確認のための試掘調査 - 』（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター所報４）福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
26　上野晃 1985「鳥浜貝塚84Ｔ地区出土の押圧文・爪形文土器」『鳥浜貝塚 - 1984年度調査概報・研究の成果 - 』（縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査５）福井県教育委員会・福井県立若狭歴史民俗資料館
27　塙静夫 1976「大谷寺洞穴」『栃木県史』（資料編　考古１）栃木県
28　諏訪間伸 1985「遺構外出土遺物」『大町遺跡』上三川町教育委員会
29　相沢忠洋 1959「赤城山麓に於ける縄文早期文化と西鹿田遺跡発掘調査の意義」『古代文化』第３巻第12号 古代学協会
30　萩谷千明 2001「西鹿田中島」『2001 発掘された日本列島 - 新発見考古速報 - 』朝日新聞社
31　若月省吾、萩谷千明、小菅将夫 2003『西鹿田中島遺跡発掘調査報告書（１）』笠懸町教育委員会
32　坂爪久純、中束耕志 1983『神谷遺跡の爪形紋土器と周辺遺跡』『群馬考古通信』第８号 群馬県考古学談話会
33　渋谷啓史、高田祐一 1980『西今井・三ツ木遺跡調査概報』（県営ほ場整備に伴う調査報告書）境町教育委員会
34　島田孝雄 1987「まとめ」『下宿遺跡Ｅ地点』太田市教育委員会
35　茨城県史編集委員会 1985「茨城のあけぼの」『茨城県史＝原始古代編』茨城県
36　川崎純徳ほか 1973『茨城県における先土器時代資料（一）』（常総台地研究会資料（２））常総台地研究会
37　谷島静訓 1968「茨城県水海道市貝柄山遺跡」『那珂川の先史遺跡』第２集 那珂川の先史遺跡刊行会

38　天野努 1974「地国穴台遺跡」『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書』Ⅱ 千葉県開発庁
39　田村隆、金子博英 1982「鎌ヶ谷市林跡遺跡採集の隆起線文土器」『奈和』第20号 奈和同人会
40　佐伯秀人 1992『前三舟台遺跡』富津市環境部環境保全課・君津郡市文化財センター
41　安岡路洋 1969「浦和市えんぎ山遺跡の調査」『第二回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会・埼玉県遺跡調査会
42　庄野靖寿、安岡路洋 1977「出土遺物」『大丸山遺跡発掘調査報告書』大丸山遺跡調査会
43　安岡路洋 1964「大宮市内発見の二・三の土器について」『埼玉考古』第２号 埼玉考古学会
44　青木美代子、鈴木仁子 1985「十二番耕地遺跡」『東北新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告－Ⅲ－ 三番耕地・十八番耕地・十二番耕地・神山』（埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第43集）(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
45　高橋敦、領塚正浩 1985「八ヶ上遺跡第5地点」『富士見市遺跡群Ⅲ』富士見市教育委員会
46　安岡路洋 1977「縄文時代の遺構・遺物」『小岩井渡場遺跡－発掘調査概報－』飯能市教育委員会
47　曽根原裕明 1994「加能里遺跡第１次調査」『飯能の遺跡（17）』飯能市教育委員会
48　芹沢長介、吉田格、岡田淳子、金子浩昌 1967「埼玉県橋立岩陰遺跡」『石器時代』第８号 石器時代文化研究会
49　埼玉県立博物館、埼玉県立さきたま資料館、埼玉会館 1975『さいたま考古展図録』埼玉県教育委員会
50　小林達雄、栗原文蔵 1961「埼玉県西谷遺跡出土の土器群とその編年的位置」『考古学雑誌』第47巻第２号 日本考古学会
51　中島宏 1981「埼玉県北部の草創期遺跡群について」『土曜考古』第３号 土曜考古学研究会
52　宮井英一 1985「宮林遺跡」『大林Ⅰ・Ⅱ 宮林 下南原』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
53　中島宏ほか 1980「東光寺裏遺跡の発掘調査」『上越新幹線埋蔵文化財発掘調査報告－Ⅳ－』埼玉県教育委員会
54　本庄市史編集室編 1976『本庄市史』資料編 本庄市
55　本庄市史編集室編 1986『本庄市史』通史編Ⅰ 本庄市
56　守茂和、古城泰ほか 1980「遺物」『宥勝寺北裏遺跡』宥勝寺北裏遺跡調査会
57　宮崎朝雄ほか 1980「如来堂Ｂ遺跡の発掘調査」『関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告－Ⅹ－甘粕山』（埼玉県遺跡発掘調査報告書第30集）埼玉県教育委員会
58　宮崎朝雄ほか 1980「如来堂Ｃ遺跡の発掘調査」『関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告－Ⅹ－甘粕山』（埼玉県遺跡発掘調査報告書第30集）埼玉県教育委員会
59　金子彰男ほか 1986『皀樹原・桧下遺跡－発掘調査概報Ⅰ－』皀樹原・桧下遺跡調査会
60　重住豊ほか 1990『向ノ原遺跡Ｂ地点－東京都太田記念会館建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書－』東京都太田記念会館建設予定地内遺跡調査会
61　大坪宣雄 1984『町田市川島谷遺跡群調査報告書』Ⅰ 町田市小田急野津田・金井団地内遺跡調査会
62　坂本彰 1995『花見山遺跡』(財)横浜市ふるさと歴史財団・埋蔵文化財センター
63　難波明 1990「三ノ宮・宮ノ前遺跡」『文化財ノート』第１集 伊勢原市教育委員会
64　中村喜代重 1983『先土器時代海老名市柏ケ谷長ヲサ遺跡発掘調査概要報告書』柏ケ谷長ヲサ遺跡調査団
65　村澤正弘 1983『深見諏訪山遺跡－神奈川県大和市深見所在の縄文時代草創期・先土器時代遺跡調査の記録－』（大和市文化財調査報告書第14集）大和市教育委員会
66　戸田哲也ほか 1992「縄文時代」『今田遺跡－発掘調査報告書－』今田遺跡発掘調査団
67　須田英一ほか 1995『南葛野遺跡』南葛野遺跡発掘調査団
68　大参義一 1970「酒呑ジュリンナ遺跡(２)」『名古屋大学文学部研究論集』史学17（No.50） 名古屋大学文学部
69　原寛、紅村弘 1958「岐阜県椛ノ湖遺跡略報」『石器時代』５号 石器時代文化研究会
70　原寛 1974「土器」『椛の湖遺跡－岐阜県恵那郡坂下町椛の湖遺跡調査報告書－』坂下町教育委員会

71　澄田正一、安達厚三 1962「岐阜県九合洞穴」『日本の洞穴遺跡』平凡社
72　藤森栄一 1960「諏訪湖底曾根の調査」『信濃』第12巻第７号 信濃史学会
73　藤森栄一、桐原健、宮坂光昭 1965「諏訪湖片羽町の低地性遺跡調査報告」『信濃』17-4 信濃史学会
74　歌代勤ほか 1980「野尻湖周辺の人類遺跡の古環境」『地質学論集』第19 号 日本地質学会
75　野尻湖人類考古グループ 1984「野尻仲町遺跡と向新田遺跡の旧石器・縄文草創期文化」『野尻湖の発掘３』（地団研専報第27号）地学団体研究会
76　鶴田典昭 2004「縄文時代の遺構と遺物」『仲町遺跡＜第１分冊＞－一般国道18号（野尻バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書３－』－信濃町内その３－国土交通省関東地方整備局・長野県埋蔵文化財センター
77　鶴田典昭 2004「縄文時代の遺構と遺物」『仲町遺跡＜第２分冊＞－一般国道18号（野尻バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書３－』－信濃町内その３－国土交通省関東地方整備局・長野県埋蔵文化財センター
78　埼玉考古学会 1986『埼玉考古』－埼玉考古学会30周年記念－ シンポジウム資料 埼玉考古学会
79　(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 1996『縄文時代草創期資料集』横浜市歴史博物館
80　横田義章 1963「青木湖底クマンバ遺跡第Ⅱ地点調査報告」『信濃』15-8 信濃史学会
81　樋口昇一、森島稔 1960「長野県柳又遺跡第１次調査概要」『日本考古学協会第26回総会 研究発表要旨』日本考古学協会
82　酒井幸則 1983「増野川子石遺跡」『長野県史 考古資料編』全１巻(３) 主要遺跡 (財)長野県史刊行会
83　三好博喜 1989『京都府遺跡調査報告書』第12冊－志高遺跡－ (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
84　舞鶴市教育委員会　2002『浦入遺跡群発掘調査報告書』＜遺物図版編＞ 舞鶴市教育委員会
85　米川仁一 2003「遺物の検討」『上津大片刈遺跡－国営総合農地開発事業上津ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－』（奈良県文化財調査報告書 第104集）奈良県立橿原考古学研究所
86　木下修 1979「先土器・縄文草創期の遺物」『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告－春日市大字上白水字門田・辻田所在門田遺跡谷地区の調査－』第11集 福岡県教育委員会
87　鎌木義昌、芹沢長介 1965「長崎県福井岩陰 第一次発掘調査の概要」『考古学集刊』第３巻第１号 東京考古学会
88　長崎県教育委員会 1966『福井洞穴調査報告』図録篇（長崎県文化財調査報告書第４集） 長崎県教育委員会
89　鎌木義昌、芹沢長介 1967「長崎県福井洞穴」『日本の洞穴遺跡』平凡社
90　芹沢長介 1974「旧石器時代の生活の知恵」『古代史発掘』１（旧石器時代） 講談社
91　麻生優、白石浩之 1976「泉福寺洞穴の第七次調査」『考古学ジャーナル』130 ニュー・サイエンス社
92　麻生優 1985『泉福寺洞穴の発掘記録』築地書館
93　木崎康弘 1995『無田原遺跡－熊本県菊池郡旭志村大字麓所在の遺跡　県営農業農村整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－』（熊本県文化財調査報告. 第148集）熊本県教育委員会
94　岡本信也 2003「調査の結果」『河陽Ｆ遺跡－国土交通省立野ダム建設事業における沢津野土捨場進入路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－』（熊本県文化財調査報告書第209集）熊本県教育委員会
95　宮坂孝宏 1994『白鳥平Ｂ遺跡調査報告』（熊本県文化財調査報告第142集）熊本県教育委員会
96　日高孝治ほか 1985「堂地西遺跡の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第２集 宮崎県教育委員会
97　管付和樹 1996「椎屋形第１遺跡の調査」『椎屋形第１遺跡・椎屋形第２遺跡・上の原遺跡－県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』宮崎県教育委員会
98　重山郁子 1996「上の原遺跡の調査」『椎屋形第１遺跡・椎屋形第２遺跡・上の原遺跡－県営農地保全整備事業時屋地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』宮崎県教育委員会
99　東憲章 1997「調査の記録」『霧島遺跡－県道都農綾線道路改良に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第４集）宮崎県埋蔵文化財センター

100　鈴木重治 1973「本邦における土器起源に関する研究 - 岩土原遺跡の調査を中心に - 」『南九州大学園芸学部研究報告 - 自然科学人文社会科学 - 』第３号 南九州大学園芸学部
101　池水寛治 1967「鹿児島県出水市上場遺跡」『考古学集刊』第３巻第４号 東京考古学会
102　中山清美、田村晃一、金井安子 1989「喜子川遺跡 - 第１次・第２次発掘調査報告 - 」『青山考古』第７号 青山考古学会
103　田村晃一、池田治 1995「喜子川遺跡 - 第３次・第４次発掘調査報告 - 」『青山史学』第14号 青山学院大学文学部史学科研究室
104　中村愿 1978『高又遺跡』（研究室活動報告３）熊本大学法文学部考古学研究室
105　永井昌文、三島格 1964「奄美大島土浜ヤーヤ洞窟遺跡調査概報」『考古学雑誌』第50巻第２号 日本考古学会
106　中山清美 1992「イヤンヤ（ヤーヤ）洞穴遺跡出土の爪形文土器」『奄美考古』第３号 奄美考古学研究会
107　松本信光 2000「土浜イヤンヤ（ヤーヤ）洞穴採集の土器」『南九州縄文通信』No.14 南九州縄文研究会
108　牛ノ浜修・堂込秀人 1983「第１貝塚」『面縄第１、第２貝塚 - 昭和57年度発掘調査概報 - 』伊仙町教育委員会
109　河口貞徳、本田道輝、瀬戸口望 1983「中甫洞穴」『鹿児島考古』第17号 鹿児島県考古学会
110　河口貞徳、本田道輝、瀬戸口望1984「中甫洞穴」『鹿児島考古』第18号 鹿児島県考古学会
111　新田重清 1977「原始古代の沖縄（１）」『沖縄県立博物館紀要』第３号 沖縄県立博物館
112　知念勇 1977『渡具知東原 - 第１～２次発掘調査報告 - 』（読谷村文化財調査報告第３集）読谷村教育委員会
113　島袋洋 1984「土器」『野国 - 野国貝塚群Ｂ地点発掘調査報告 - 』沖縄県教育委員会
114　国分直一、三島格 1965「ヤブチ式土器 - 琉球と奄美大島における文化交流の一証跡 - 」『水産大学校研究報告 人文科学編』第10号 水産大学校
115　下地安広 1990『城間古墓群 - 牧港補給地区開発工事に伴う緊急発掘調査報告書 - 』浦添市教育委員会
116　松川章 1988『チヂフチャー洞穴遺跡 - 範囲確認調査報告書 - 』浦添市教育委員会
117　宮城朝光 1979「渡嘉敷島船越原遺跡の土器 - 曽畑式土器、ヤブチ式土器、爪形文土器の土器資料 - 」『花綵』創刊号 沖縄国際大学考古学研究会O.B.会

伊藤圭 2004「指頭押圧されたヤブチ式土器」『与那城町海の文化資料館 紀要』創刊号 与那城町海の文化資料館
江坂輝彌 1980「西北九州地方の縄文文化と朝鮮半島南部の先史文化」『月刊 考古学ジャーナル』No.183 ニュー・サイエンス社
岡本東三 1982「縄文時代Ⅰ（早期・前期）」『日本の美術２』No.189 至文堂
神原雄一郎 2003「盛岡の縄文土器 - 草創期・早期 - 」『盛岡の歴史を語る会資料』（レジュメ）
岸本義彦 1984「収束」『野国 - 野国貝塚群Ｂ地点発掘調査報告 - 』沖縄県教育委員会
岸本義彦 1991「南島の土器起源をめぐって - 爪形文土器についての一考察 - 」『奄美考古』第２号 奄美考古学研究会
岸本義彦 1997「南島の爪形文土器文化」『南島の人と文化の起源』公開学習会実行委員会
坂田邦洋 1978『韓国隆起文土器の研究』昭和堂印刷
下地安広 2000「土器からみた琉球列島の交流史」『古代文化』第52巻第３号 古代学協会
新東晃一 1997「提起 爪形文土器の古さと系譜」『南島の人と文化の起源』公開学習会実行委員会
白石浩之 1984「縄文時代草創期の爪形文土器の研究とその課題」『大和市史研究』10 大和市役所管理部文書課
土肥孝 1982「縄文文化起源論」『縄文土器の研究』第３巻 - 縄文土器Ⅰ - ㈱雄山閣出版
韓炳三 1979「主要遺跡解説」『世界陶磁全集』17 - 韓国古代 - 小学館
金元龍 1973『新版 韓国考古学概説』一志社
金廷鶴 1980「幾何文（櫛文）土器の編年」『月刊 考古学ジャーナル』No.183 ニュー・サイエンス社